

1: 【The Black Note】 第4話 もう一つの出会い

3: ■オープニング

5: デュレモノローグ「光のあるところには、必ず影ができる。歴史もそれは同様で、表の歴史のすぐ
6: そばに、裏の歴史がいつも存在していた。けれどあの頃は、誰一人として、そんなこと
7: を考えてはいらなかった。その歴史が表が裏かなんて、そのときを生きているものには
8: なんの関わりもないことなのだから……」

10: (クロスフェード)

12: セレスモノローグ「後の世に、闇の書・ブラックノートと呼ばれた書物がある。それは、12の精
13: 霊核の伝説に隠された裏の歴史を書き記した漆黒の表紙の書物だった。決して歴史の表に
14: 晒されることのなかった哀しくて、切なくて、心がおしつぶされてしまいそうなほどの真
15: 相。それは飾られた偽りではなく、紛れもない真実——」

17: ■タイトルコール

19: デュレ「The Black Note 第4話・『もう一つの出会い』」

21: ■本編

22: //サムの家

23: SE：がさごそ、お掃除、お掃除。

25: セレス「掃除、洗濯、雨あられって。汚いお部屋。けどさあ、この部屋をきれいにお掃除したくら
26: いで、サムに恩が売れるのかなあ」

27: デュレ「売りつけて見せます。それに、この散らかった部屋を片付けたら何かが出てくるかもしれ
28: ないですし」

29: セレス「……出てこないと思うけど、あたし」

30: デュレ「出てこなかったらその時はその時です。でも、少なくとも、エルフ狩りから守ってくれた
31: のですから、敵ではないですよ？」

32: セレス「う〜……多分」

33: デュレ「何ですか、その不満で一杯の眼差しは」

34: セレス「だって、自由気ままにやりたいんだもの。も一遠慮なく突撃したらいいじゃない？」

35: デュレ「突撃されたら、困ります！」

36: セレス「でもお、常にアクティブじゃないと気が滅入るのよ。だから、サムを追い掛ける！」

37: デュレ「——意味が判りませんっ！ はあ……（諦めのため息）では、セレスはサム。わたし
38: は……とりあえず、この部屋を掃除して、リボンちゃんを探してみることにします。そこ
39: からシェイラル一族の順ですね」

40: セレス「リボンちゃん？」

41: デュレ「ええ、リボンちゃん。ただの白いオオカミのようでも精霊ですから、この時代にもどこか
42: にいると思います。それに、妙にこの224年前に思い入れがあるようですから、もしかし
43: たら……」

44: セレス「あ〜ん、成る程ね。じゃ、あたしはサムが何者かを絶対に掴んでやるわ」

45: デュレ「そのサムは協会護衛騎士うにやうにやとってましたけど」

46: セレス「うにやうにやのままだったらダメじゃん。まずそこをきっちり説明してもらって、説明し
47: てくれないなら実行行使してみようかな——なんて——。あれ、どしたの、デュレ」

48: デュレ「……いえ、発想がとってもセレスらしいかなと思って——困っていたところです」

49: セレス「あたしらしいんだったら別にいいじゃん、いつものことだし♪」

50: デュレ「そうですね——」

51: セレス「ところで、デュレ。シェイラル一族の末裔に会えて、久須那を助ける方法を教えてもら
52: うとするじゃない？ リボンちゃんの言うようにさ。って言うかさ、それで、たった今こ
53: こで封印を解いたらダメなのかな？」

54: デュレ「……ダメなんじゃないでしょうか？」

55: セレス「じゃあ、あたしたちがどう頑張ったとしても今は久須那は助けられないってこと？」

56: デュレ「判りません。……ただ、わたしたちの時代に久須那の絵が存在するからには、今、この時
57: 代で久須那の封印が解けないという逆説的なことは言えると思いますけど」

58: セレス「え——？」（不安げ）

59: デュレ「……いちいち、面倒くさいですね。じゃあ、例をあげます。仮に今、久須那の封印をが解
60: けたらどうなると思いますか？」

61: セレス「ラッキー、という感じじゃない？」

62: デュレ「ま、予想通りの反応ですけど。今だけを考えたら、きっと、セレスの思う通りなんですよ
63: うね。でも、久須那の封印が無くなるなら、わたしたちはきっとここには来ない。じゃ
64: あ、久須那の封印は結局どうやって解けたんですか？」

65: セレス「いやだから、あたしたちが解いたんだよね？」

66: デュレ「はあ（頭を抱えて）では、質問を変えます。わたしたちがここに来るきっかけは何でした
67: か？」

68: セレス「久須那のシルエットスキルに会ったから……だよな？」

69: デュレ「その通り。では、久須那の封印が解けたら、きっと、シルエットスキルはいなくなりま
70: す。すると、わたしたちがここに来たきっかけがなくなるんですが……どう思います？」

71: セレス「……あたしたちは……ここにこない……よね？ 多分」

72: デュレ「ハイ、ご明察。けど、わたしたちはここにいますよ？ じゃあ、ここに居るわたしたちは
73: 一体、何ですか？」

74: セレス「何ですか？ って言われても困るんだけどなあ……」

75: デュレ「答えられないということはわたしたちが時の理から弾き出されてるということだと思いま
76: せんか？ 今この私たちの居場所はどこに消えたんですか？」

77: セレス「さあ……？ 判らない……けど？」

78: デュレ「つまり、慎重に行動しないと私たちの居場所はどこにもなくなるということですよ。セレス
79: にはバカをやらないで、慎重深く行動して欲しいと」

80: セレス「……はあ……」

81: デュレ「ですが、フツに成り行きに任せると進んで行くしかないでしょうね。そして、そのこと
82: がリボンちゃんが思い描いていたことなのかもしれません……」

83: セレス「あまり小難しい言葉を並べ立てないで欲しいんだけど、とりあえず、成り行き任せでい
84: いって言うなら、あたし出掛ける！ さっきのスカーフ、貸して！」

85:

86: SE：どたどた足音

87: SE：ドアを開ける音

88:

89: デュレ 「微妙に勘違いしているような気がするんですが……、セレスにはぐちゃぐちゃと言っても
90: 仕方がないですよねぇ……。さて、わたしは……お掃除のつづきを始めようかしら？」
91:
92: SE：掃除する音。
93:
94: デュレ 「セレスはあんなんだし、サムはサムでどうしてこんな汚いところで平気にいられるのかしら
95: ら」
96: サム 「……で、てめえはその汚いところで何やってんだ？」
97: デュレ 「うわっ！ な、何もしてません！」
98: サム 「の、割にゃあ、ほうきを持ってちり取りを持って、バケツやら雑巾やら用意してよ。まさに
99: 『お掃除してます♪』って格好じゃねぇか？ 出て行けて言われて、掃除し出すやつも
100: 初めて見たぜ。相当な物好きだな、てめえも」
101: デュレ 「い、今、出ていくところですよ！」
102:
103: SE：掃除用具を投げ捨てる音
104: SE：歩く音。腕を掴む音。
105: SE：ドアを閉じる音
106:
107: デュレ 「何をするんですか！」
108: サム 「おい、セレスはどこに行った？」
109: デュレ 「さあ？ いったい、どこに消えたんでしょうね？」
110: サム 「真面目に答えるよ。明け方から往来のど真ん中でぎゃーぎゃーやってるからリテール協会に
111: てめえらの存在が筒抜けしてるんだよ。しかも、エルフ狩りをかわしちまったもんだから、
112: ちょっと、厄介なことになってる……」
113: デュレ 「でも、わたしたちを助けてくれるつもりはないんですよ？」
114: サム 「放っておきたいのは山々なんだがね、助けてやるよ」
115: デュレ 「そうですか？ わたしたちを反協会組織・トリリアンの一味だって突き出してしまえば、
116: 簡単、でしょ？」
117: サム 「——二人そろってやなやつだな。てめえらがとっとここから出ていけるように人捜しを手
118: 伝ってやるって言うてるだろ？」
119: デュレ 「そお言う、押し付けがましいことを平気で言う人は嫌いですっ！」
120: サム 「あのなあ。別に恩を売ってえわけじゃねぇんだって」
121: ちゃっきー 「Hey!! Girl!! 旦那しゃまは女の好き。困ってる娘っ子は助けずにはいられない！
122: この前なんか天使に大負け喰らったくせにそおれでも、懲りないの〜。射程はお子ちゃま
123: からお婆ちゃままで、千差万別、オスじゃなけりゃ、何でも可。ただあ、ちょっとシャイ
124: なのとお。久須那ちゃんに浮気がばれるのがとっても怖い。だって、見た見た？ 燃え
125: 盛る嫉妬の炎の凄まじさ！」
126: サム 「根も葉もないことを言うんじゃねぇよ」
127: ちゃっきー 「橙色なんて飛び越えて、青白〜く完全燃焼、一万数千°Cの灼熱の恒星みたいなエネルギー
128: ギーを発するのだ。サムっちなんか、速攻で真っ黒焦げよ〜」
129: サム 「てめえが真っ黒焦げになってりゃ全部丸く収まるんだよ」
130:
131: SE：炎が出る
132:

133: ちゃっきー 「ううう……しどいい……」
134: サム 「久須那の名を不用意に声に出すんじゃないよ！」
135: デュレ 「久須那？ 久須那って、え？ 久須那さんと何か関係があるんですか？」
136: サム 「あー、こいつの冗談をいちいち真に受けるなよ。大ほら吹きだぞ、こいつは！」
137: ちゃっきー 「大ほら吹きたあいい度胸だ。おいらは大いなる事実に基づいてのみほらを吹くの
138: じゃ。久須那っちとジューゼさまのことはホントのホントよ！ 旦那しゃまは幾多の時代
139: を股にかけ、女たらしの限りを尽くしているのだ。ちなみにここはみっちゅめの時代で、
140: チミは十一人目の彼女」
141: デュレ 「わたしは彼女じゃありません」
142: サム 「……。じゃ、まずはお友達からってことで。って、違う！ ちゃっきー、話を混ぜるな」
143: ちゃっきー 「へっへ〜ん。知〜らない！」
144: サム 「コラ、逃げるとは卑怯だぞ！」
145:
146: SE：ダンッと足踏みする音
147:
148: デュレ 「ど・こ・へ、行くつもりですか？ サム」
149: サム 「うへ！ いい勘してるよ。その点ではてめえも久須那に似てるよな……」
150: サム 「セレスと三年も付き合ったら嫌でも勘がよくなります。あの娘ったらぐ〜たらぐ〜たらサ
151: ボって逃げることばかり思いつくから、先回りの連続で……、どうやって働かせるか、大
152: 変で——」
153: サム 「……セレスにかなり手を焼いてるようだな」
154: デュレ 「ええ、どうにもならないほどに。けど、とってもいい娘なんです。って、話をすり替えて
155: はぐらかさないでください！ ですから、久須那さんとあなたがどういう関係かと聞いて
156: るんですよ。重要なんですからきちんと答えてください」
157: サム 「……てめえ、久須那のことになるとやけにムキになる……」
158: デュレ 「え、そ、そんなことはない……はず」
159: サム 「ま、いい。先に俺の質問に答えてくれたら、久須那のこと教えてやるぜ？」
160: デュレ 「取り引き……ですか？」
161: サム 「最初に取り引きを持ちかけたのはてめえだろ？」
162: デュレ 「……そうでしたね。でも、わたしはあなたにそれだけの対価は支払ったと思いますが。お
163: 部屋のお掃除代、洗濯代にその他諸々たくさん。と言うことは久須那さんのことを聞いて
164: もおつりが来ると思うのですが……」
165: サム 「抜け目がねぇな、てめえ。商魂たくましいぜ。判った、それで手を打ってやる」
166: デュレ 「では、取引成立ですね？」
167:
168:
169: //街のどこかの繁華街。
170: SE：街の雑踏
171: SE：足音
172:
173: セレス 「はぁ〜ん……。流星にお昼どころか朝の朝じゃ面白い物も何も転がってないか。つまんな
174: い。やっば、デュレと一緒にいた方が良かったかなあ。——しかし、ま。サムっちはど
175: こに行ったのかしらねぇ——」
176:

177: SE：足音
178:
179: シリア「おい、その……パンツルックはちまき姉ちゃん。オレと運試しに行かないか？」
180: セレス「はあ？ ちまき姉ちゃんとは誰のことだっ！」
181: シリア「振り向いたお前のことだ」
182: セレス「……リボンちゃん」
183:
184: SE：さらに足音
185:
186: パッシュ「……こんな子供にまでやらせるつもりなのか、シリア？」
187: セレス「——それははずさない……、だって、そんな、おかしいよ」
188: シリア「中途半端なマッチョマンよりよほど見込みがあると思うが、ダメか？」
189: パッシュ「ダメも何も無理だろう、小娘には。シルエットスキルとはいえ相手は久須那だぞ」
190: シリア「そうか？ しかし、オレの直感がこいつだって告げてるぜ」
191: パッシュ「ことごとく外してきたくせによく言うよ」
192: シリア「パッシュ——。手当たり次第試してみようと言ったのはお前だろ？ サスケだってただの
193: 留守番じゃ退屈だろうし、フツウの娘だったら久須那だって少しくらいは手加減してくれ
194: るさ」
195: パッシュ「そうか？ いつも久須那は相手をけちよんけちよんにしていたぞ？」
196: セレス「聞いてないよ。リボンちゃん、キミが——キミが母さんと組んでたなんて——」
197: パッシュ「……？ あたしの顔に何か付いてるのか？」
198: セレス「え、あ、う……。その、早い話。それってナンパ？」
199: パッシュ「……お前、女とフェンリルにナンパされて、嬉しいのか？」
200: セレス「うぐぐ。——そうじゃないなら、何の用なのさ、全く、もう！」
201: シリア「知りたいか？」
202: セレス「知りたいに決まってるでしょ！」
203: パッシュ「いつも思うけど、長い前置きは何とかならないのかな？」
204: シリア「はは、何ともならないようだぜ」
205: セレス「で？ あたしに何をやらせたいの？」
206: シリア「じゃ、単刀直入に言わせてもらおうぞ」
207: パッシュ「もう、全然、単刀直入じゃないじゃないか」
208: シリア「お前もその嫌味癖を何とかしろ。……ま、いい。——ちょっとオレたちと運試しに付き
209: 合って欲しいのさ。……十二の精霊核の伝説……知ってるだろう？」
210: セレス「……知ってる。あたしの追い掛けたい謎がいっぱいある。そう言う伝説」
211: シリア「なるほど。じゃあ、ちょうどいい。お前に伝説の一端に触れさせてやる。……どうい
212: う結果が待っているかは知らんがね」
213: セレス「は～ん。誘いはするけど、あとは自分の責任で何とかしろってことか」
214: シリア「そう言うことだ」
215: セレス「申し出はありがたいんだけど……。あたし、一人じゃないんだ。相談してくるから時間も
216: らえるかな？」
217: シリア「……男か？ ありがちに？」
218: セレス「あははっ！ そんなワケないじゃん。女よ、女。ダークエルフの小姑みたいにうるさい
219: 娘っこ！」
220: デュレ「……誰が小姑みたいにうるさい娘っこなんですかつ！ 説明しなさい」

221: セレス「げっ。なんでキミはこう嫌な時に絶妙なタイミングで現れるのかな？」
222: デュレ「セレスが悪さをしようとするピンと来るんです」
223: セレス「つまりそれは、あたしはいつでもどこでもデュレの監視下にあるってこと？ でも、今度
224: は悪さはしてないもんね～だっ。ちゃ～んとデュレに相談しにいこうと思ってたんだか
225: ら」
226: デュレ「ま、セレスにしては珍しいですね。で、どのようなご相談でしょうか？」
227: セレス「！ キミねえ、そんなに尖らないでくれる？」
228: サム「パッシュか。何でまたてめえはセレスを掴まえてるかな？ 他にもたくさんいるだろう？
229: 暇そうにブラブラしてる連中」
230: シリア「たくさんいてもな、オレたちの目にとまったのはこいつなんだから仕方がないだろう？」
231: サム「……。運がいいのか、悪いのか。捕まえたのがエルフ狩り連中じゃなくて良かったな」
232: パッシュ「サムはセレスと知り合いだったのか？」
233: サム「ああ、つい今朝方からな。朝っぱらから往来でぎゃーぎゃーやってるところを見付け
234: た。——で、シリアとパッシュがいてこの様子ってことは……やるのか？」
235: セレス「って言うことはサムっちもやったことあるの？ というか、キミたちは知り合い？」
236: デュレ「ちょっと、まだ話の途中です。勝手にどっか行かない！」
237: セレス「細かいこと、言わない、で、どうなんよ、サム？」
238: サム「知り合いといえは知り合いだが、それ以上でも、それ以下でもねえなあ」
239: セレス「どしてさ？」
240: サム「あ～ん？ ちゃっきーがふざけて言ってたことを……っててめえはいなかったか？」
241: ちゃっきー「しょう！」
242:
243: SE：ちゃっきー登場
244:
245: セレス「うわっ！ 驚かさないでよ。心臓がパンクしちゃう」
246: ちゃっきー「久須那っちは千三百年前の空の下を共に歩いて、一緒に飛んだ仲なのじゃ。ちゅ・
247: ま・り、最大最高のパートナーにして最良の伴侶。そ～んなやつと久須那っちが剣を交え
248: ると思うのかあっ！」
249: サム「伴侶じゃねえよ。パッシュ、それ、やるわ」
250:
251: SE：投げられる音。
252:
253: パッシュ「あたしはそんなもんいらん！」
254:
255: SE：弓の音。
256:
257: ちゃっきー「うきゅ」
258: サム「ともかくな、それは俺じゃねえんだとよ。久須那が……そのシルエットスキルが言うには
259: な。何だ？ その面は？」
260: セレス「いや、別に。ごちうさまってかんじかな？」
261: デュレ「バカなことを言ってるんじゃない。何でも、いちいち核心から逸れるのかし
262: ら？」
263: セレス「だあって、雑談が大好きなんだもん♪」
264: デュレ「判りました。代わりにわたしが聞きますっ。それで、あなたたちはセレスに何をやらせた

265: いのですか」
266: セレス「デュレはあたしの保護者かなんかかいっ！」
267: デュレ「そうです！ セレスは駄々っ子だから手がかかって仕方がありません」
268: パッシュ「（大笑い）」
269: セレス「ちょっと、パッシュ！ その笑いはどういう意味さ。酷いんじゃない？」
270: パッシュ「ははは。いや、急にセレスが身近に感じて、悪意はないさ」
271: セレス「そいで、あたしに何をさせたいって？」
272: シリア「……シメオン大聖堂の地下へ行き、そこで久須那のシルエットスキルと腕試しをしてくれ
273: いたいさ」
274: セレス「え……」
275: デュレ「ちょっと、セレス、いいですか？」
276: セレス「な、何よ」
277: デュレ「……今、久須那と会うのは危険すぎると思います。事態が急に進みすぎて、なんかいろい
278: ろと追いついていけません。今回は断ったほうが……」
279: セレス「断らないっ！ それに、あのさ。どう言ったらいいか、あれなんだけど、パッシュってあ
280: たしのお母さんみたい……」
281: デュレ「は？」
282: セレス「パッシュはあたしの母さんなんだ……肖像画の母さんしか知らないけど——」
283: デュレ「はあ？ だってそんな……。つまり、その、若かりし日のお母さん？ セレスの？ い
284: え、でも、……訳が判らなくなってきました……」
285: セレス「うん……」
286: デュレ「——けれど……、ひとついいですか？」
287: セレス「いいよ」
288: デュレ「あなたのお母さんはわたしたちの時代では生きてるんですか？」
289: セレス「判らない。父さんのことは覚えてるけど、母さんは……物心ついた時にはいなかったか
290: ら……。生きてる母さんを見たのは……今日が初めてなんだ」
291: デュレ「このままいってダイジョブなのかしら……」（不安げ）
292: サム「お～い、てめえら。まだ、話がまとまらないのか？ 時間は——無限じゃないぜ。見付けた
293: い物がある時は探すべき時に探せ。鉄則だろ？ 急げばいいってものでもないが、おちお
294: ちしてたら逃げられるぜ。それに何よりお前らには時間がない。この街に長くいるほど危
295: 険が増すぜ」
296: セレス「あ～、もうちょっとでまとまるから待ちなさいよ」
297: サム「判ったけどよ。人目のつくところで長居するもんじゃない」
298: セレス「ねえ、デュレ。キミは認めたくないかもしれないけど、帰る場所がなくなることが怖いん
299: でしょ。けどさ。けどだよ」
300: デュレ「怖くないと思ったらウソでしょうけど、わたしが言いたいのはそこじゃありません」
301: セレス「じゃ、何さ？」
302: デュレ「パッシュと関わりを持つことはなんか、とても危ないことのような気がして」
303: セレス「じゃあ、こう考えれば、いいんじゃない？ 成り行きに任せたらこうなった。ただ、それ
304: だけ。だから、心配しても仕方がないんじゃないかな。あたしが言うと、ちょっとあれだ
305: けど、きっと、あたしとパッシュはここで会うことになってたんじゃないかなあと」
306: デュレ「そう言われたらそうなんです……。ただ、わたしたちがここにいる状況でパッシュに何
307: かが起きたら、セレスが生まれないなんてことが起るうるワケで……」
308: セレス「……かもしれない。けど、どうなるにしても、進んでいくしかないんじゃない？」

309: デュレ「……そうですね。進んでいくほかありませんよね……」
310: セレス「その通り、きっと何とかなるよ」
311: デュレ「じゃあ、それぞれの結果と成果をもってあとでサムの家で会いましょう？」
312: セレス「うん」
313: デュレ「じゃ、セレスは久須那とのリベンジを果たしてきてください。わたしはもっと大人しくに
314: 調査してきます」
315: デュレ「嫌味か、そりゃ！」
316: セレス「ええ、嫌味です。けど、セレスの方はダイナミックにとっ散らかせば何か動くかもしれない
317: ませんし」
318: セレス「ま、そうかもね。ダイナミックなのがあたしの取り柄よ！」
319: シリア「もう、いいか？ 二人とも」
320: デュレ「ええ、いいです」
321: SE：歩き出す音
322: SE：歩き出す音
323: SE：歩き出す音
324: セレス「そ～んじや行きますか？ リボ……。シリアくん、パッシュ？ どうなるか判らないって
325: 言ってたけど、一応、戻れるんでしょ？」
326: パッシュ「まあ、そのはずだ」
327: シリア「何か、変なこと口走りそうだったよな？」
328: セレス「うん、そんなことないよ」
329: シリア「気のせいかな……」
330: セレス「そ、気のせいよ」
331: SE：歩き出す音
332: //セレス、パッシュ、シリアを見送る。
333: SE：歩き出す音
334: サム「さて、デュレ。あっちも動き出したよだから俺たちも行くか？」
335: デュレ「あ、待ってください。セレスに渡したいものがあるのを忘れていました」
336: SE：歩き出す音
337: SE：デュレ走る。
338: SE：歩き出す音
339: デュレ「セレス！」
340: セレス「なあに？」
341: デュレ「これ……」
342: SE：歩き出す音
343: SE：歩き出す音
344: SE：歩き出す音
345: セレス「って、闇護符？ これ。あたしには使えないんじゃない？」
346: デュレ「使えます。闇護符は使うヒトの能力や得意な属性なんて関係ありません。使い方は簡単、
347: 護符を狙う方向に掲げて、封を解きたいと強く念じるだけです」
348: セレス「あの。簡単なのはいいけど、ホント、大丈夫？ 魔力が逆流とかしない？」
349: デュレ「しませんが。その三枚は最初からセレス用にして調整しておいたんだからっ！」
350: セレス「へ？」
351: デュレ「もう、いちいち、やりにくいですね。要らないなら返してください！」
352: セレス「いや、要ります。折角、もらったんだから大事に使わせていただきます」

353: デュレ 「よるしい！ あと、古代エスメラルダ語なんてど～せセレスには読めないでしょうから、
354: 裏に護符の名前を書いておきました。あとは、間違っても暴発させないようにしてください
355: いね♪ 多分、死にますから」
356: セレス 「ひい。これってそんなに物騒なものなの？」
357: デュレ 「キャリアアウトさえしなければ、ただの紙切れです。ウェストポーチにしまって、ボタン
358: でもかけておけば大丈夫なはずです」
359: デュレ 「では、セレス。幸運をっ！」
360: セレス 「うん、ありがとう、デュレ。大事に使うよ。って、あれ？ うわ。ちょっと、バッシュ、
361: シリアくん？ 待ってよ。何で、キミたち、主役をおいて行っちゃうかな」
362:
363: SE：走る音
364:
365: サム 「——あれは一人で行かせても大丈夫なのか？」
366: デュレ 「大丈夫でなくともやってもらうしかないでしょう。わたしたちにもすることがあります
367: し」
368: サム 「まあ、なあ……」
369:
370:
371: //場面転換
372:
373: SE：水滴の落ちる音。
374: SE：カツンカツンと足音。
375:
376: レイヴン 「マリス——。マリス……」
377: マリス 「——わたしに……語りかけるのは誰だ……？」
378: レイヴン 「わたしたよ、マリス」
379: マリス 「レイヴン……か？」
380: レイヴン 「ああ。もうすぐ、お前の氷の封印が解ける……。もう少しの辛抱だ……。もう少しで、
381: お前はもう一度、自分の空を取り戻せる……」
382:
383:
384: //協会大聖堂にて
385:
386: SE：ドアを開ける音
387: SE：複数の足音
388:
389: セレス 「は～ん。大聖堂の裏側のこんなところに入出口があるなんて、不思議ね」
390: シリア 「サムに教えてもらったのさ。ここからだったら、礼拝堂や広間、大回廊のような人が集ま
391: る場所、人目につきやすい場所を避けることが出来る」
392: バッシュ 「長話はしない！ 入るぞ」
393: シリア 「……判ったよ。けどな、無駄話が好きなんだからしょうがないだろ？」
394: バッシュ 「そんな集中力のないことをやってるから、尻尾を燃やすんだ」
395: セレス 「え？ シリアくんって、そんな大失敗したことあるの？」
396: バッシュ 「ああ、ある。あれはかなり面白かったな？」

397: シリア 「バッシュ……」
398: バッシュ 「今じゃ、笑い話だ。別に構わないだろう？」
399:
400: SE：シリア、そそくさと歩く音。
401:
402: バッシュ 「まあ、つまり、久須那の放ったイグニスの矢がシリアの尻尾に当たって、燃えたという
403: こと♪ 当然、尻尾は見事に消し炭になったよ。あの時のショボンとした顔と、哀愁の
404: 漂った背中とはなかなか忘れられない」
405: セレス 「あははっ！ 見たかったなあ。それ」
406: バッシュ 「どうしても見たかったら、燃やしてやればいいさ。余裕があれば——だけどな」
407: セレス 「あはっ♪ いい考え。やってみるわ」
408:
409: SE：ドアを開ける。地下に入ります。
410: SE：布を引っ張るような音
411:
412: セレス 「ねえ、バッシュ」
413: バッシュ 「何だ？」
414: セレス 「……バッシュはどこでリボンちゃん——、シリアくんと知り合ったの？」
415: バッシュ 「さあ？ 久須那に勝ったら教えてやってもいいぞ。さ、そこを右に折れたら、地下への
416: 階段がある。ずっと下に降りていけば」
417: セレス 「あたし、真っ暗いところは嫌いなんだけど。バッシュ、カンテラ持ってないの？」
418: バッシュ 「持ってない。けど、先に行ったりリボンちゃんが燭台に火をつけてると思うけどな」
419: セレス 「どうやって？」
420: バッシュ 「魔法に決まってるだろう」
421: セレス 「あーそうか。——とこころで、もしかして、この長い階段の物陰にオオカミみたいのとかい
422: ないのかな？ ——。ねえ！」
423:
424: SE：ゆらゆらと火の揺れる音
425: SE：バッシュの髪の毛を掴んで引っ張る
426: SE：ひっくり返る音
427:
428: バッシュ 「こらっ」
429: セレス 「あははっ……。——ごめんちゃい……」
430: シリア 「——？ お前ら、何をじゃれあってるんだ、そんなところで？」
431: バッシュ 「意表をつけて、髪を引っ張られたんだ。仕方がないだろ？」
432: シリア 「ほうっ！ 後に目がついてるバッシュでも油断するか？」
433: バッシュ 「お前もうるさいやつだな」
434:
435: SE：重いものを持ち上げる音。
436:
437: シリア 「おいおい、何をするんだよ」
438: バッシュ 「——太った？」
439: シリア 「ふ、太った？ 失敬な。オレのスレンダーボディを捕まえて何を言う！」
440: バッシュ 「だって、この間、抱き上げたときより重くなったぞ、ちょっとだけ。——ま、取りあえ

441: ず、余計な話を花を咲かせられたら長いから、このまま運んでいこうと思って」
442: シリア「な？ そんなんだったら下ろせ！」
443: パッシュ「いやだ。これ以上のタイムロスは御免だ。ここでのりくりとやってたんじゃ、日が
444: 暮れるだろ？ それぐらいなら少し重くても運んでいったほうがいいよ」
445: シリア「何だそりゃ？ いい、やめ、下ろせ。カッコ悪い、サスケが笑うだろ？」
446: パッシュ「てーこーは無意味だ♪ あたしの腕力をなめるなよ」
447:
448: SE：階段を下りる
449:
450: シリア「無意味だって言われても。はい、そ~ですかと引き下がれるか」
451: セレス「へへ〜♪ そうやってるシリアくんって大きなぬいぐるみみたいで可愛いね♪」
452: シリア「可愛い??」
453:
454: SE：尻尾をバタバタ
455:
456: パッシュ「くしゅんっ！ ……シリア、このジタバタしないで大人しくしているっ」
457: シリア「く、くすぐったい。やめるって。い？ 痛い。痛たた。やめ、やめっ」
458: セレス「あははっ♪ 二人とも楽しげで仲良くて、いいよね」
459:
460: SE：ザツと言う音
461:
462: サスケ「誰の許しを得てここに立ち入った。——早急に立ち去るならば手出しは……—何だ、シ
463: リアか……パッシュも一緒に来たのか。詰まらん。と言うことは……後ろからくっついて
464: きた若い娘がそうなのか？ それはそうと……何で、シリアはパッシュに抱かれてる？」
465: シリア「——下ろしてくれ、パッシュ」
466: パッシュ「……そうだな」
467: シリア「——先を急ぐか——どうせ、すぐそこだ」
468: サスケ「しかし、女の子を連れてきたのは初めてのようなきがするが？」
469: シリア「パッシュだって、女の子だろ？ 昔は」
470: パッシュ「『昔は』は余計だ」
471:
472: SE：パッシュは弓の元弮でリボンの後頭部を突つつく音
473:
474: シリア「遊ぶな、パッシュ」
475: サスケ「真面目に答えるよ、シリア」
476: シリア「さあな。セレスの後ろ姿を見付けた時、こいつだと思った。理由なんかないよ」
477: パッシュ「なあ、サスケはこの言葉、千三百年の間に何回聞いた？」
478: サスケ「のべ二千六百八十四回だ。そのうち、いいところまでいったのが二人か三人。まあまあ様
479: になったのが六百人。お話にもならないやつが約二千人くらいかな？ つまり、終わる力
480: 可能性はほとんどないということだ」
481: セレス「……ねえ、帰っちゃ、ダメ？」
482: シリア・サスケ・パッシュ「ダメッ！」
483: セレス「……あっそ。だったら、気分が萎えそうなこと言わないでもらえる？」
484:

485: SE：歩く
486:
487: シリア「ここだ……。セレス、どうかしたのか？ 顔色が良くない」
488: セレス「ううん、何でもなし。久須那ってどんな人なのかなあってさ」
489: シリア「……。すぐ判る。そっちの壁を見てみる」
490: セレス「絵……。どうして、“絵”だったの」
491: シリア「……魔力が言葉に託すものとしたら、絵は魂、心、身体……。そう言った実体から精神
492: までを託すもの。“言葉”では表現しきれない久須那の全てを絵に託し、封じたのさ——」
493: パッシュ「古くからある魔法だが、術者も限られた最大難易度の魔法だよ」
494: セレス「光と炎の高次魔法だって聞いた？ 違うの？」
495: 久須那「——それはわたしのことだ」
496: セレス「久須那……」
497: シリア「彼女が久須那本人と言いたいところだが、あいつは久須那のシルエットスキル。セレスの
498: 言ったように光と炎の高次魔術だ。いわば、オリジナルのコピー。だが、久須那本人のス
499: キル、思考パターン全てを持ち。ここからが重要だ。いいか？」
500: セレス「う、うん……」
501: シリア「久須那とそのシルエットスキルは記憶と経験を共有する。一心同体と言っても過言ではな
502: い。シルエットスキルが感じたことは久須那も感じる」
503: セレス「……は？」
504: シリア「——ひょっとして、通じなかったか？」
505: パッシュ「説明する必要はないんじゃないか？」
506: セレス「そりゃ、あたしがバカだって言いたいのかいっ」
507: パッシュ「そうじゃないさ。勝たなければ教える労力が無駄になるってこと」
508: セレス「どっちでも一緒じゃん、そんなの。けど、勝てばいいんでしょ？ 勝てば」
509: 久須那「セレスと言ったか？ ——準備は……いいか？」
510: セレス「へへ〜。ちょっとは手加減して欲しいかなあ。なんて」
511:
512: SE：キリキリと弓を引く音。
513:
514: 久須那「手加減は——なしだ！」
515:
516: SE：矢が連射される音。
517: SE：転ぶ音。
518:
519: セレス「うわっちゃっちゃ。何か、ぬるっとしたっ！ 気持ち悪い。何これ？ ——血？」
520:
521: SE：再び、矢の連射
522:
523: セレス「うわ！。あんなもの当たったらホントに死んじゃう」
524: パッシュ「無駄口を叩いてる暇なんかないだろ？」
525: セレス「ま、ね」
526:
527: SE：ひゅんと矢の飛ぶ音。（一本？）
528:

529: セレス「っ！ 痛っ！ ……血？ 触ってないのに……」
530: 久須那「言っておくが、セレス。これは威嚇だぞ」
531: セレス「……これからが本番ってこと……？」
532: 久須那「何とでも、お好きなように」
533: セレス「ちょ、挑発に乗るほどあたしはまぬげじゃないやっ！」
534: 久須那「そうか？ わたしにはそう見えない。熱しやすく、調子に乗りやすい楽道家」
535: セレス「はいはい……。もう、どうでもいいわ。好きにしてっ！」
536:
537: SE：矢が剣でたたき落とされるような音。
538:
539: セレス「あう。矢をたたき落とすなんて……。凄い」
540: 久須那「そうか？ ほめてくれてありがとう」
541: セレス「別にどういたしまして」（無感情に）
542: 久須那「それはそうと、いつまでそうしているつもりだ？ セレス。お前から攻めてこないのだから、ちっとも腕試しにならないのだが」
543: セレス「うるさいっ。真剣勝負なんですよ？ 余計な、余計なことをいわないでよ」
544: 久須那「そうか？ ならば、お前も減らず口は叩かないことだ」
545: パッシュ「落ち着け、セレス。まだ勝機はあるぞ。お前はデュレに何をもらった？」
546: セレス「闇護符！ え、え～、な、何をもらったっけ？」
547:
548: SE：ウェストポーチをまさぐる音。
549:
550: セレス「って、読めない！ じゃない、裏、裏、。え、え～と……」
551:
552: SE：久須那の気配を感じさせるような何か。
553:
554: セレス「えと……。も一何でもいいや、キャリーアウト！」
555:
556: SE：闇護符から魔法が発動する音。と、そのまま吸収するような音。
557:
558: 久須那「マジックシールド！ ——そんなんじゃ、わたしを感かせないぞ。ファイアーボルト！」
559:
560: SE：飛び退き、着地。
561: SE：ファイアーボルト着弾
562:
563: シリア「あっちい！ このっ、久須那！ 今のはわざとだろ？」
564: 久須那「……そんなところで、寝そべって観戦なんかしてるからだ」
565: パッシュ「何をやってるんだ、シリアのやつ」
566: 久須那「……ところで、お前は——、闇の魔法の護符を使えるのか？」
567: セレス「違う。あたしじゃない。友達が使えるの」
568: 久須那「——他人が使えるように護符を調整できるとは心強い友人をもっているな。——が、それは関係ない」
569: セレス「あははは、はあ……。やっぱりね」
570:
571:
572:

573: セレス（困ったな……。残った護符はシャドウカッターとフライングスベル。どう使おう……。これ、同時に使ったらどうなるのかな……？）
574:
575: セレス「へへ～♪ いっけえ～っ！ キャリーアウト！」
576: 久須那「シールドっ！」
577:
578: SE：シャドウカッターとフライングスベルが弾け飛ぶ音。
579:
580: セレス「……。うああ、大変なことになっちゃった……。けれど、今こそ、チャンス！」
581:
582: SE：弓下ろして、一気にダッシュ！
583:
584: 久須那「何？」
585:
586: SE：ダッシュする音。
587: SE：短剣の煌めくような音。久須那を捕まえる音。
588:
589: セレス「……刺されたくなかったら、負けを認めなさい」
590: 久須那「わたしは刺してもらっても全く構わない。むしろ、どうした？ 刺さないのか？」
591: セレス「あ、う——？」
592: 久須那「どうした？ ——刺すのが……怖いかな？ 殺さないと終わらない。と言ったら？」
593: セレス「……（返事にならない返事）」
594: 久須那「フフ……。そんなに怯えた顔をするな。これは腕試しだからな……。無駄は言わない。——。——などと、わたしが言うと思うのか？」
595:
596: SE：ぐきっ！
597:
598: セレス「うぐっ、て、手首が……！」
599:
600: SE：短剣が床に転がる音
601: SE：背中を床に打ち付ける音。
602:
603: セレス「はっ、あっ！」
604:
605: SE：短剣を拾う音
606:
607: 久須那「形勢逆転、さあ、どうする？ ……もう、諦めるか？ それとも……？」
608:
609: